総 説

エイズにみられた皮膚真菌症

赤 城 久美子¹ 山 田 宏 司¹ 関 藤 成 文¹

根 岸 昌 功² 味 澤 篤² 増 田 剛 太²

五十棲 健³

¹東京都立駒込病院皮膚科

²東京都立駒込病院感染科

³東京大学医学部皮膚科

要 旨

エイズ患者にみられる皮膚真菌症は、表在性真菌症としてカンジダ症、白癬、癬風があり、深在性真菌症としてクリプトコックス症、ヒストプラズマ症、スポロトリウム症、コクシジオイド真菌症、ペニシリウム症などが報告されている。都立駒込病院で現在（1993年10月）までにエイズ患者に認められた皮膚真菌症はカンジダ症と白癬、癬風のみである。ほとんどのHIV感染者は経過中に口腔カンジダ症を経験するが、その一部が爪カンジダ症、カンジダ性間擦疹などを併発する。白癬は角化型足白癬に爪白癬を伴う場合が多い。一部の症例で *Trichophyton rubrum* を証明した。皮疹は抗真菌剤外用によく反応するが爪真菌症は難治である。

Key words: カンジダ症 (candidiasis), 白癬 (tinea), *Trichophyton rubrum*

HIV感染者は免疫不全のために様々な真菌症をひきおこす¹⁾が、その中で皮膚に発生した真菌症を、都立駒込病院での経験をもとに供覧した。

表在性真菌症のカンジダ症、白癬、癬風は高頻度にみられたが、深在性真菌症として報告されているクリプトコックス症、ヒストプラズマ症、スポロトリウム症、コクシジオイド真菌症、ペニシリウム症などの皮膚病変は当院ではまだ経験していない。

1. 皮膚粘膜カンジダ症

口腔粘膜のカンジダ症はAIDSおよびARCで最もよくみられる真菌症であり、白色の偽膜を形成したり萎縮性病変を呈する。種々の日和見感染症の初発症状となることが多く、AIDS発症の予兆として重要である²⁾。局所の疼痛や味覚低下、

不快感があり、アムホテリシンBシロップを投与している。また食道カンジダ症として拡大すると嚥下障害や胸後部痛をひきおこす。難治性の場合フルコナゾールが有効である。皮膚では爪囲と陰股部などにみられ、爪囲炎は爪甲のカンジダ症をひきおこす。多数の手指、足趾が爪甲の剥離、白濁、破壊を呈し難治である。

24歳、同性愛男性の舌カンジダ症、カンジダ性爪炎、爪囲炎を供覧した。爪炎発症時、CD4陽性細胞数 $10/\mu l$ で、爪甲の直接検鏡では仮性菌糸と分芽胞子が認められた。分離培養を行いスライドカルチャーで厚膜胞子が認められ、*Candida albicans*と同定した。患者はその後サイトメガロウイルス感染症を併発し呼吸不全で死亡した。

2. 白 癬

AIDS患者の足白癬の罹患率は約30%といわれ、非常に高率である³⁾。ほとんどが重症の角質増殖型で爪白癬を伴っていることが多い。爪囲炎を合

別刷請求先：赤城久美子

〒113 東京都文京区本駒込3-18-22

東京都立駒込病院皮膚科

併し爪甲近位部の白濁を呈する例もある。陰股部や体部の白癬は広汎に拡大し、境界部の小水疱や紅色丘疹などの炎症所見は少ない。体部および足白癬はイミダゾール系抗真菌剤が奏効した。グリセオフルビンは薬疹をきたしやすく、副作用などの点からも AIDS 患者の爪白癬には使用していないのが実情である。

39 歳、異性間性的接触により感染した男性の足白癬と爪白癬を供覧した。患者の CD4 陽性細胞数 $32/\mu\text{l}$ で、サイトメガロウイルス網膜炎、カポジ肉腫、全身の色素沈着を併発していた。足底は過角化が著明で爪甲の肥厚と白濁が全足趾に認められた。爪と足底の鱗屑の直接検鏡で糸状菌陽性であり、分離培養では赤色色素の産生と小分生子、大分生子が認められ、*Trichophyton rubrum* と同定した。足白癬はビフォナゾールクリームの外用で改善したが爪白癬は難治で、患者は 2 カ月後に全身衰弱で死亡した。

他に足白癬の症例を 3 例、体部白癬の症例を 2 例供覧した。

3. 癬 風

Malassezia furfur はヒト皮膚の常在真菌のひとつであり、癬風は AIDS 患者でも高率に認められる。ただし当院では患者の訴えが少なく確かめた症例は 1 例のみであった。イミダゾール系抗真菌剤の外用は有効だが、再発しやすい。

AIDS 患者に欧米でよくみられるとされる脂漏性皮膚炎は、日本人では軽症で少ないが、*M. furfur* が関与しているといわれている。

4. クリプトコックス症

クリプトコックス症は AIDS 患者の日和見感染症として最も重要な真菌症の一つであり髄膜炎は死因として大きな位置を占める。初感染巣は肺とされているが血行性に全身に播種して皮膚病変を

呈することがある。伝染性軟属腫によく似た丘疹⁴⁾、結節、蜂窩織炎、潰瘍など多彩な病像を示す。まれに皮膚原発例の報告もある⁵⁾。当院では髄膜炎や肺炎の症例はあるが、皮疹はまだ経験していない。

5. ヒストプラズマ症、コクシジオイデス症

南北アメリカ大陸の限られた地域にみられる深在性真菌症で、肺に初感染巣を形成し全身に播種して皮膚に病変を呈することがある。潰瘍、結節など多彩な病変を呈するが、本邦ではまだ AIDS 患者の皮疹についての報告はない。

6. ペニシリウム症

Penicillium marneffei による感染症はタイなどの東南アジアに多くみられ、潰瘍形成など多彩な病変を呈する。今後国際交流が盛んになるにつれて、わが国での報告も増えてくる可能性がある。

文 献

- 1) 松田哲男他：AIDS と真菌症。皮膚臨床 35：1533-1538, 1993.
- 2) Dover JS et al：Cutaneous manifestations of human immunodeficiency virus infection. Arch Dermatol 127：1549-1558, 1991.
- 3) Mühlemann MF et al：Early warning skin signs in AIDS and persistent generalized lymphadenopathy. British Journal of Dermatology 114：419-424, 1986.
- 4) Rico MJ et al：Cutaneous cryptococcosis resembling molluscum contagiosum in a patient with AIDS. Arch Dermatol 121：901-902, 1985.
- 5) Cusini M et al：Primary cutaneous cryptococcosis in a patient with the acquired immunodeficiency syndrome. Arch Dermatol 127：1848-1849, 1991.

Mucocutaneous Involvements of Fungal Infections Complicating HIV Disease

Kumiko Akagi¹, Kouji Yamada¹, Narihumi Sekido¹, Masayoshi Negishi²,
Atsushi Ajisawa², Gouta Masuda², Ken Iozumi³

¹Department of Dermatology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital,
3-18-22 Honkomagome, Bunkyo-ku Tokyo 113

²Department of Infectious Disease, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital,
3-18-22 Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo 113

³Department of Dermatology, Tokyo, University,
7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113

Oral candidiasis is the fungal infection most commonly involved in HIV-infected individuals. It responds to amphotericin B syrup or fluconazole, but tends to relapse if daily application is stopped.

The incidence rate of dermatophyte infection is about 30% in HIV-infected persons, and tinea of the feet and nails is especially common. We present a case of dermatophyte infection with HIV disease in which *Trichophyton rubrum* was isolated.

We have not observed any HIV-infected patients with cutaneous lesions of cryptococcosis, histoplasmosis or other deep fungal infections in Tokyo Metropolitan Komagome Hospital.

この論文は、第37回日本医真菌学会総会の“シンポジウム：1. エイズと真菌症”において発表されたものです。